

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35 (13)	○災害対策 立地から考えられる災害リスクに対しての研修や避難計画策定、訓練実施は行っているが、火災訓練について消防署(専門家)からの意見や助言を加えることで、より実践に即したものになるのではないかと、という外部評価での指摘(助言)を受けた。	①年間計画に基づいた研修や訓練の実施により、利用者の安全確保が行える実践力を向上する。 ②専門家(消防署)の意見や助言を踏まえた火災時の避難計画が策定できる(計画の見直し修正ができる)。	①本館利用者と合わせ27名の方の避難確保であることを意識できるよう、訓練は合同で行い反省も含め共有していく。 ②初回の火災避難訓練時に、南消防署または妹尾出張所に立ち会いを依頼し実施する。その際の助言をマニュアルに活かす。 ③地域の防災訓練に参加する。	12ヶ月
2	40 (15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事提供の面では一人一人の状態や嗜好に合わせた柔軟な対応ができているが、その準備から調理、片付までの一連の流れは職員主体に傾いている。 利用者の力はまだまだ残されており、今一度一緒にを行うことを考えていきたい。	①買物、調理(味付けや盛り付け含)、後片付けなどを、利用者が自分の力を発揮したり、楽しんだりしながら、職員と一緒にすることができる。 ②食事を一日の大切な活動として捉え、上項を行うことで、食べる楽しみに繋がる。	①献立を見ながら購入する食材を一緒に考え、店内では品選びや袋詰めなども一緒に行う。 ②購入だけでなく畑で収穫した野菜を使う。 ③洗う、切る、混ぜる、味付、味見、盛付、配膳下膳、食器拭き、片付など、その人にできる部分を行えるよう声かけやセッティングをする。 ④時間を要しても、手順を間違えても、職員が取り上げてしまうことのないよう待つ姿勢を大切にする。 ⑤調理道具やテーブル配置など利用者の使いやすさや動きやすさなど環境を見直す。 ⑥外食やテイクアウトなども活用し、食べる楽しみを増やす	12ヶ月
3	44	○便秘の予防と対応 前項、食事と合わせて支援していくことが重要と考えるが、現在どの利用者も薬の助けが必要となっている。昨年キャリア形成訪問指導事業でも便の薬について学んだところであり、薬に頼らない排便を目指したい。	①現在使用している便に関する薬が少しでも減らすことができる。 ②現在使用している便に関する薬が今以上に増えない。 ③食事や運動など生活全体を見直すことに繋がり、生活習慣が整う。	①利用者個々の嗜好に配慮しながら、乳製品や水分の摂取を多く促す。 ②前項の食事作りも含め、日々の中での活動を増やし体を動かす機会を増やす。(同じ姿勢で座ったままの時間が長くないようにする) ③一人一人の生活リズムに合わせ、毎日決まった時間にトイレに座る習慣を促していく。 ④主治医との連携を図りながら適切な排便のコントロールを継続する。(内服薬の把握をする) ⑤便秘予防のための食材やメニュー、また運動についての知識を増やせるよう内外部の研修に積極的に参加する。	12ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。